



平成24年12月14日

電気ストーブ等*の取扱いに注意！

～ 主な暖房器具の火災の7割以上を占めています ～

例年、冬になると暖房器具に起因する火災が発生していますが、近年、電気を使用した電気ストーブ、カーボンヒータ、ハロゲンヒータ等の使用中に火災が多発していることから、東京消防庁では電気ストーブ等の取扱いに注意を呼びかけています。

※ 電気ストーブ等とは、電気ストーブ、カーボンヒータ、ハロゲンヒータ、温風機をいいます。

【電気ストーブ等の火災発生状況】

1 暖房器具火災に占める電気ストーブ等の割合は7割以上

過去5年間（平成19～23年、以下同じ）の主な暖房器具別の火災発生状況を見ると、電気ストーブ等から発生した火災は567件で、主な暖房器具の火災（786件）の7割以上（72.1%）を占めており、死者39人、負傷者264人と多くの方が受傷しています。

本年1月から3月まででも71件発生し、主な暖房器具の火災（96件）の7割以上（74.0%）を占めています。死者5人、負傷者29人が発生し、すでに昨年電気ストーブ等による火災の死者4人を超えています。（表1、2、3参照）

2 電気ストーブ等の火災は、これから増え始める

過去5年間の火災発生状況を月別にみると、暖房器具を使い始める11月から12月にかけて急増し、1月をピークに徐々に減少していく傾向にあります。特に冬季（1月、2月、3月、11月、12月）で481件発生し、電気ストーブ等の火災の8割以上（84.8%）を占めています。（図1参照）

3 火災時に電気ストーブ等を使用していた人は20歳代が最も多い

過去5年間の火災発生状況を使用者の年齢が判明した年代別にみると、30歳代までの比較的若い年代で多く発生しており、最も多いのは20歳代で118件（25.4%）発生しています。（図2参照）

【出火原因】

過去5年間の電気ストーブ等による火災の出火原因をみると、「布団や衣類等が接触する」が336件で最も多く発生し、ほぼ6割（59.3%）を占めています。（表4参照）

【火災を防ぐために】

電気ストーブ等は、火を使っていないという安心感や、給油や換気の手間がかからないことから、使用者の注意不足による火災が多く発生しています。

火災を防ぐためには、電気ストーブ等の周囲は常に整理整頓し、使用しない時、就寝する時はスイッチを切ることを習慣づけることなどが重要です。

問合せ先

東京消防庁(代)	03-3212-2111
予防部調査課	内線 5065 5067
防災部防災安全課	内線 4195 4196
広報課報道係	内線 2345~2350



TOKYO ● 2020
CANDIDATE CITY
2020年 オリンピック・
パラリンピックを日本に!

【別紙】

＜過去5年間（平成19～23年）の主な暖房器具による火災の状況＞

表1 主な暖房器具別火災状況

	合 計	合 電 気 ス ト ー ブ 等 の 計	電 気 ス ト ー ブ	ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	カ ー ボ ン ヒ ー タ	温 風 機	石 油 ス ト ー ブ	石 油 フ ァ ン ヒ ー タ	ガ ス ス ト ー ブ	ガ ス フ ァ ン ヒ ー タ
合 計	786 (100)	567 (72.1)	424	93	32	18	134 (17.0)	26 (3.3)	36 (4.6)	23 (2.9)
平成19年	150 (100)	106 (70.7)	83	17	-	6	24 (16.0)	9 (6.0)	7 (4.7)	4 (2.7)
平成20年	197 (100)	146 (74.1)	109	33	-	4	32 (16.2)	6 (3.0)	9 (4.6)	4 (2.0)
平成21年	152 (100)	105 (69.1)	85	14	5	1	34 (22.4)	4 (2.6)	5 (3.3)	4 (2.6)
平成22年	126 (100)	95 (75.4)	66	15	11	3	18 (14.3)	1 (0.8)	7 (5.6)	5 (4.0)
平成23年	161 (100)	115 (71.4)	81	14	16	4	26 (16.1)	6 (3.7)	8 (5.0)	6 (3.7)
平成24年 (1月～3月末)	96 (100)	71 (74.0)	45	11	15	-	15 (15.6)	1 (1.0)	8 (8.3)	1 (1.0)

- 注1 合計欄の数値は、平成19年から平成23年の合計値です。
 2 平成24年の数値は3月31日までの値で、後日変更される場合があります。
 3 カッコ内は合計に対する割合(%)で、小数第二位の数値を四捨五入しており、個々の数値の和が合計と合致しない場合があります。

表2 電気ストーブ等の火災状況

年 別	合 計	火 災 件 数							焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)	
		建 物					車 両	船 舶					そ の 他
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							
合 計	567	566	25	37	144	360	-	-	1	6,624	2,328	39	264
平成19年	106	106	4	6	28	68	-	-	-	1,465	453	9	65
平成20年	146	146	10	12	35	89	-	-	-	2,234	845	12	79
平成21年	105	105	4	8	26	67	-	-	-	896	406	11	41
平成22年	95	94	4	6	28	56	-	-	1	1,198	400	3	36
平成23年	115	115	3	5	27	80	-	-	-	831	224	4	43
平成24年	71	71	3	5	18	45	-	-	-	916	240	5	29

- 注1 合計欄の数値は、平成19年から平成23年の合計値です。
 2 平成24年の数値は3月31日までの値で、後日変更される場合があります。

表3 電気ストーブ等の死者の年齢区別状況（過去5年間）

	小 計	乳 幼 児	未 成 年	成 人	高 齢 者	
					前 期 高 齢 者	後 期 高 齢 者
合 計	44	-	-	7	4	28
平成19年	9	-	-	2	2	5
平成20年	12	-	-	1	1	10
平成21年	11	-	-	3	1	7
平成22年	3	-	-	1	-	2
平成23年	4	-	-	-	-	4
平成24年	5	-	-	1	1	3

注1 平成24年の数値は3月31日までの値で、後日変更される場合があります。

2 前期高齢者は65歳～74歳、後期高齢者は75歳以上をいいます。

図1 電気ストーブ等の月別火災状況（過去5年間）

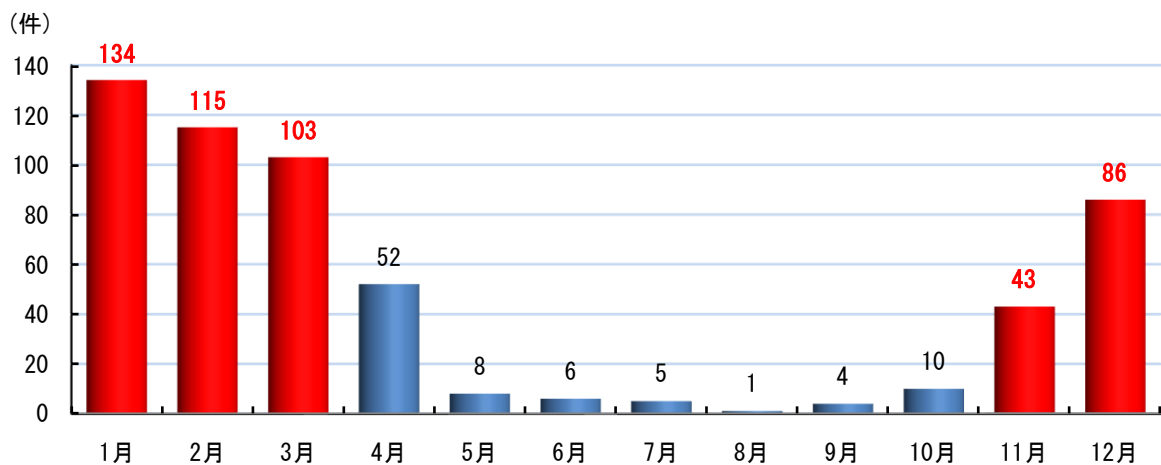
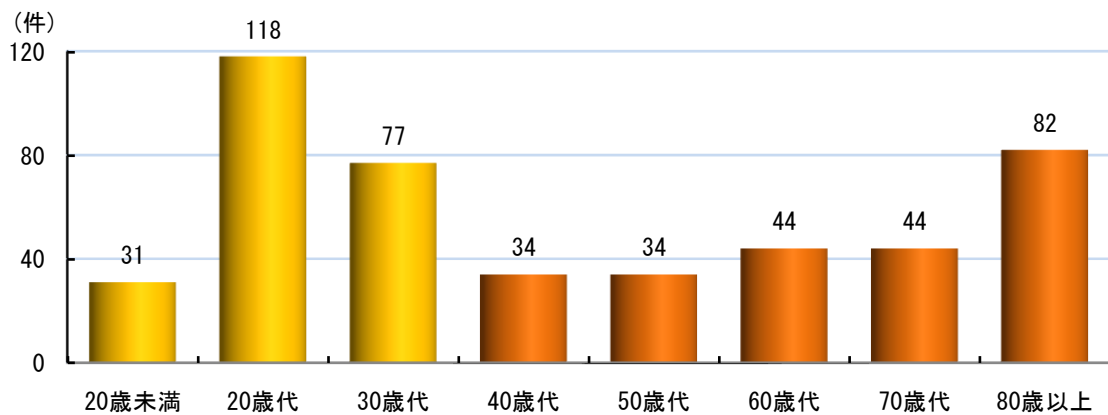


図2 電気ストーブ等の使用者の年代別火災状況（過去5年間）



※ 年齢が判明した464件について集計。

表4 電気ストーブ等の経過別火災状況（過去5年間）

	合 計	布 団 や 衣 類 等 が 接 触 す る	洗 濯 物 等 が 落 下 す る	衣 類 等 が た た め 発 火 す る	近 所 に 置 く	雑 誌 等 を 置 く	部 品 が 過 熱 す る	コ ン セ ン ト や 差 込 み プ ラ グ 等 の 接 触	半 断 線 に よ り 発 熱 す る	コ ー ド が 重 量 物 等 に 踏 ま れ	電 線 が 短 絡 す る	電 気 ス ト ー ブ 等 が 倒 す る	誤 っ て ス イ ッ チ が 入 る （ 入 れ る ）	電 気 ス ト ー ブ 等 が 接 触 す る	そ の 他	不 明
合 計	567	336	45	30	19	19	19	19	17	15	15	11	37	4		
平成19年	106	66	8	2	6	4	5	4	4	1	-	6	-			
平成20年	146	96	14	4	3	4	5	3	1	3	3	9	1			
平成21年	105	60	7	9	1	6	4	5	2	4	1	5	1			
平成22年	95	56	6	10	4	3	3	1	2	2	2	5	1			
平成23年	115	58	10	5	5	2	2	4	6	5	5	12	1			
平成24年	71	44	10	5	3	-	-	2	-	2	1	3	1			

注 平成24年の数値は3月31日までの値で、後日変更される場合があります。

火災を防ぐポイント

1 電気ストーブ等の周りは、常に整理整頓を

布団、衣類、雑誌などの可燃物が電気ストーブ等の近くに置いてあると、ちょっとしたはずみで可燃物が電気ストーブ等に接触し出火する恐れがあります。

2 寝るとき、その場を離れる時はスイッチを切る習慣をつける

寝返りなどで布団が電気ストーブ等に接触して火災になるおそれがあるので、寝る時やその場を離れる時は、スイッチを切る習慣をつけましょう。

3 燃えやすい物の近くで電気ストーブ等を使用しない

カーテンのそばで使用したり、電気ストーブ等の上や近くに洗濯物を干したりすると、電気ストーブ等に触れて火災になる恐れがあります。

4 使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いておく

何かの拍子に誤ってスイッチが入ってしまい、近くの可燃物に着火し、出火する恐れがあります。

5 電源プラグや電源コードを点検する

電源プラグや電源コードの異常から出火する火災も発生しています。電源プラグや電源コードを定期的に点検し、異常がある場合は使用を中止し、販売店等に相談しましょう。

【火災事例】

事例 1 「衣類などの可燃物が落下して出火した火災」

(平成 24 年 3 月 2 時ごろ 墨田区 住宅)

この火災は、住宅の 2 階居室で洗濯竿に引っ掛けて干していた洗濯物が何らかの弾みで落下し、洗濯物の下で使用していた電気ストーブに接触して出火したものです。火元居住者は就寝中でしたが、煙の臭いで目が覚め火災を発見しています。ケガ人は発生していません。

写真 1-1 洗濯物の再現状況

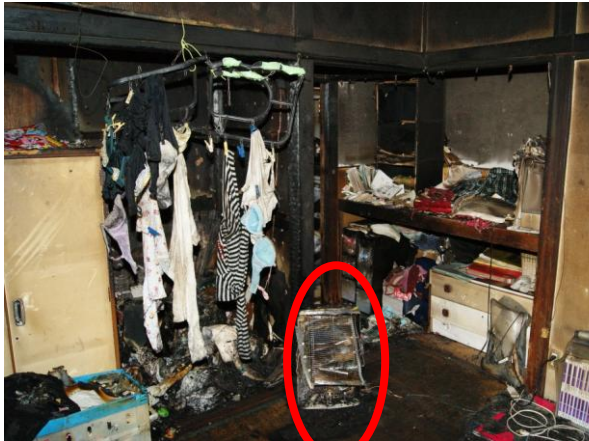


写真 1-2 電気ストーブの状況



電気ストーブ

事例 2 「ハロゲンヒータにもたれかかってしまい着衣に着火した火災」

(平成 24 年 2 月 21 時ごろ 板橋区 宿泊所)

この火災は、旅館の 2 階宿泊室で宿泊者が飲酒中に寝てしまい、使用していたハロゲンヒータにもたれかかったため着衣に着火したものです。この火災で、ハロゲンヒータにもたれかかってしまった宿泊者（60代男性）が火傷（程度：中等症）を負っています。

写真 2-1 焼損した着衣

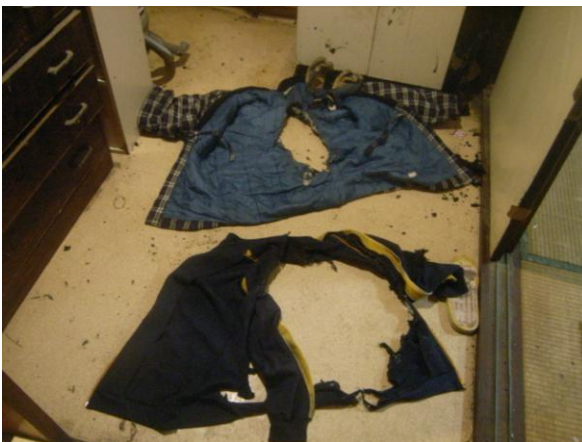


写真 2-2 ハロゲンヒータの状況



【電気ストーブの実験映像】

電気ストーブの上に衣類が落下した場合の実験映像です。

- (1) 電気ストーブの上に衣類が落下している状況



電気ストーブ

- (2) 電気ストーブに接触した衣類や布団が燃焼している状況

